

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

吹き溜まる落ち葉日差しに乾きゆく音立つる
なり冬は間近く 八嶋 正子
ナナハンにへばりつゝいる銀カパーはがし走
らむ冬の青空 村上 英俊
あたたかき茶の間の壁に二泊せしでぶつちよ
カメムシつまみ出ださる 鈴木 茂子
姓でなく名前前で呼び合う同窓会「花摘む野辺
に」と歌い肩くむ 後藤今朝雄
三面鏡の扉をそつと開くとき未知の朝をひら
く心地す 寺崎 悦子
妻に似たる案山子よことう畔みちにスズメ集
いて粉をついばむ 遠藤 行夫
スパーに通いくる客それぞれの暮らしうか
がわせ正月近し 佐藤 啓子
軒下に干し柿吊るせば笑み出でて心和まん師
走の風情 鎌田ねい子
花に代はる枝付きの柿つばに差し部屋に飾り
てしばしながむる 遠藤 舞
みちの奥の空に描きぬ秋の日の由比に見たり
し裾野ひく富士 結城 絹

【評】一首目、かすかな乾反る音にも季節を思
う作者。周辺からの具体的な取材がいい。
二首目、「銀カパー」は、銀色の覆いで、
ここでは寒い季節の儼然さも表しているよう。
「へばりつゝいる」という形容も成る程だ。
三首目、ユーモラスにカメムシを描いて楽
しい。二泊させることで歌に繋げ得たのかも。

俳壇

遠藤 秋尾 選

昇る陽に輝く霜の城下町 岩澤 伍峯
包丁を研ぎて厨の年惜む 斎藤 典子
舟の月浮べる空に冬の星 高子たちばあ
初雪に足跡しるし跳ぶ雀 岩松 隆志

風間市長の風のそよそよやき

「辛卯」

かのとう

「空気も水もなく、無重力で地球の何倍ものジャンプと飛距離がでる月で、ウサギは生きていけないよ？」なんてつまらないことは考えないで、時には、

ボエムの気分で想像することも楽しいのではないかと思えます。満月のお月さまを見上げて、もちつきウサギの影を探してみ

お隣の中国では、「もち」ではなく「薬」だそうです。このような話は、世界各国にあるようです。
先日、諸施策が市民に等しく認知されていなく、PR方法で悩んでいる私に、ある市議会議員の方から、「市長！紙ベースの広報しろいし、インターネットのホームページ、このほかに『動く広報』として、市民パスきやつするくんを活用してみ

と活力のある街にしていきたいと思います。市民の皆さまとともに力を合わせて！ウサギのようにジャンプ！飛躍させましょう。
話は変わりますが、今から48年前の昭和38年も卯年でした。アポロ計画を実行したケネディ大統領が暗殺され、日本では池田勇人さんが首相で、ボーリングが人気を集め、兼業農家が40%を超えた年です。この時代、国鉄の初乗りは10円だったよう

振る舞い、おもてなしをしてくれます。そこでは、ウサギと一緒に「月見」ならぬ「地球見」を楽しむのです。そして、「あの地球という所には、心優しく慈しみのある『人間』という生き物が、動物や植物などほかの生命体と仲良く、ともに平和に暮らしているよ」と自慢したいものです。
月にはウサギがいて、もちをついているというような伝承は、日本だけではないようです。

案をいただきました。車内だけでなく、バスの後や側面に取り外し自由なマグネット板を取り付け、大題目と連絡先を明記し、情報を発信させるそうです。車を運転しているときバスの後を走っていると、バスの看板の文字が意識しなくとも目に入ってきて、何のことかとても気になるそうです。
あまり車を運転しなくなった私には発想できなかった、面白く興味のあるアイデアです。いろいろな制約があり、実現可能かどうか今の段階では即答できませんが、大いに耳を傾けたい提案です。

今年も卯年。今まで以上に耳を立てて、共汗・共学・共生の精神で、愛する郷土を活力のある街にしていきたいと思います。市民の皆さまとともに力を合わせて！ウサギのようにジャンプ！飛躍させましょう。

柳壇

四電 英夫 選

一服の柚子茶の香り朝日差す 阿部はぎの
北支那の兄に干柿送りし日 制野 リエ
霜柱朝陽を受けて光ってる 佐藤 啓子
吾が膝にいつしか猫のまるみ居て 遠藤 忠臣
晴雨表欠かすことなく十二月 福原 峯子
はらはらと木の葉時雨の小道かな 寺崎 悦子
【評】一句目、朝霜に日が昇る景である。一読して分かる風景である。「城下町」の下五がいい。
二句目、「年惜む」が季語である。包丁を研ぎ台所の隅々まで掃除されたのであろう。ふと一年を振り返り、過ぎ行く日々を惜しむのである。主婦ならではの句。
三句目、この句も情景が目に浮かんでくる作品。「冬の星」の下五が、全体を生き生きとさせた。

気が付けば二人三脚古希を過ぎ 水戸 光穂
友情が敵となった貸した金 草野 清
今日も無事記した日記軽く閉じ 佐藤 啓子
流星群祈る間もなく消え去りし 斎藤 典子
腰下ろし頬杖ついて無とさとり 遠藤 行夫
一とせの過ぎし早さをかこちをり 高子たちばあ
熊だつて満腹にして眠りたい 阿部はぎの
やさしさと忍耐少し夫婦とや 寺崎 悦子
初孫の笑顔寝顔に癒される 遠藤 松雄
忘れられないように選んだ場所忘れ 阿部みさ子
【評】一句目、夫婦は空気のようなもの。居るときは気が付かないが、なくてはならない存在。恙なく共に白髪が生えるまで。
二句目、金の切れ目が縁の切れ目などと言われるが、とかく金は争いのもと。金は崇高な主人であるとともに、人を奴隷にもする。
三句目、今日一日、生きた証しを書き記し安堵の眠りに就く。無事に過ごした感謝と、満足感が伝わる。「軽く閉じ」が言い得て妙。

—思いやりのある良質で信頼される医療を目指して—

公立刈田綜合病院紹介

リハビリテーション科紹介(作業療法)

作業療法士 高橋 ともみ 朋美

当院のリハビリテーション科は、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の4職種で構成されています。

今回は「作業療法」についてご紹介します。「作業療法士」は主に身体障害、精神障害、発達障害などを持った子どもから高齢者まで、あらゆる年齢層を対象に、医師の指示の下、その人が本来持っている機能の回復や維持を行う専門職です。

作業療法の「作業」は具体的に、「起き上がる」「ご飯を食べる」「トイレに行く」「洋服を着る」「歯を磨く」「顔を洗う」「家事・仕事をする」など、日常行っていることすべてを含みます。そして、「何らかの原因により手がうまく使えない」(身体機能面)、「物事を考えられない・覚えられない」(認知力の低下)に対して日常生活を円滑に行うために、筋力訓練や手工芸などを用いて訓練を行います。

例えば、脳卒中が原因で利き手が麻痺した場合、反対

の手で利き手と同様に動作を行うための訓練を行ったり、主婦の方が自宅退院される際には作業療法士と一緒に調理訓練などを行ったりします。また、便利な道具の紹介や家屋改造、介助方法などの指導も行います。

当院の作業療法では、主に脳卒中や上肢の骨折の方を中心にリハビリを行っています。発症後早期から、患者さまの状態に合わせて訓練を行い、退院後もよりよい生活を送っていただけることを目指しています。



作業療法での訓練の様子

平成23年4月「回復期リハビリテーション病棟」開設予定

まちの話題

～あの日、あの時～

みんなの無病息災を願って
武家屋敷で恒例行事「冬至の会」・「七草の会」

年末年始の恒例行事「冬至の会」と「七草の会」を12月22日と1月7日、武家屋敷で開催しました。

「冬至の会」では、風邪をひかず長い冬を乗り切るよう、小豆とかぼちゃを煮込んだ「冬至かぼちゃ」を提供。「七草の会」では、万病・邪気を除くといわれる「七草がゆ」を振る舞いました。訪れた方々はいろりを囲み、家族の無病息災をお祈りしながら、季節の話と伝統の味を楽しみました。

この催しは、平成5年に武家屋敷が復元されて以来、毎年開催。文化財施設でこのような会を開催するのは県内でも珍しく、「地域の伝統を残していきたい」という思いと、料理を担当した「ヘルスメイト白石」(立田ふち子会長)の皆さんのご協力により開催することができています。



1-2 甘い小豆とほくほくのかぼちゃが体を温めてくれます 3 七草がゆには、お正月で疲れた胃を休める意味も込められています

